

2011
7

長崎県

長崎県の“土木”のいまがわかります

DOVOC 通信 ながさき

NO.14

特集
1

土木部の予算

特集
2

長崎県の 大規模地震対策

ずーむあつぷ
ながさき人

ふるさと散策

DOVOC インフォメーション

みなさんのご協力により完成しました。
ありがとうございました。

完成箇所



栄上為石線 長崎市

拡幅整備により、交通混雑の緩和や歩行者の安全性の向上が図られました。



長崎港(長崎港松が枝国際観光船埠頭)長崎市
周辺環境や国際観光船埠頭に相応しい景観となり、海洋型イベントの開催も容易になりました。



早岐港(遊歩道)佐世保市

約2kmの散歩道となり、主に地元の方の散歩やランニング等に利用されています。



平戸港(歩行者通路)平戸市

歩行者の安全性と快適性が向上し、観光客に憩いの空間を提供しています。



(施工前)



(施工後)

街なみ環境整備(上小路周辺地区)大村市

玖島城址から続く歴史的街なみへの入り口部分にふさわしい修景を行いました。



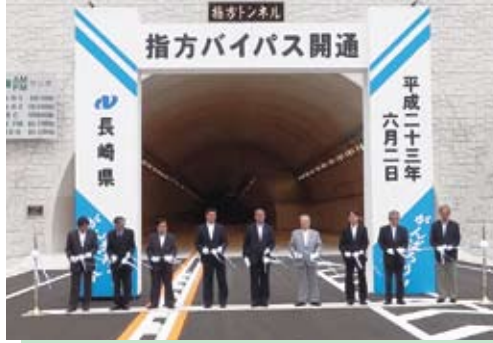
県営住宅(滑石団地2-3棟)長崎市

建替工事によって、県営住宅の居住機能及び耐震性の向上が図られました。



急傾斜地崩壊対策(毛井首地区)長崎市

がけ崩れ対策工事によって、地域住民の安全性の向上が図られました。



一般国道202号指方バイパス 佐世保市

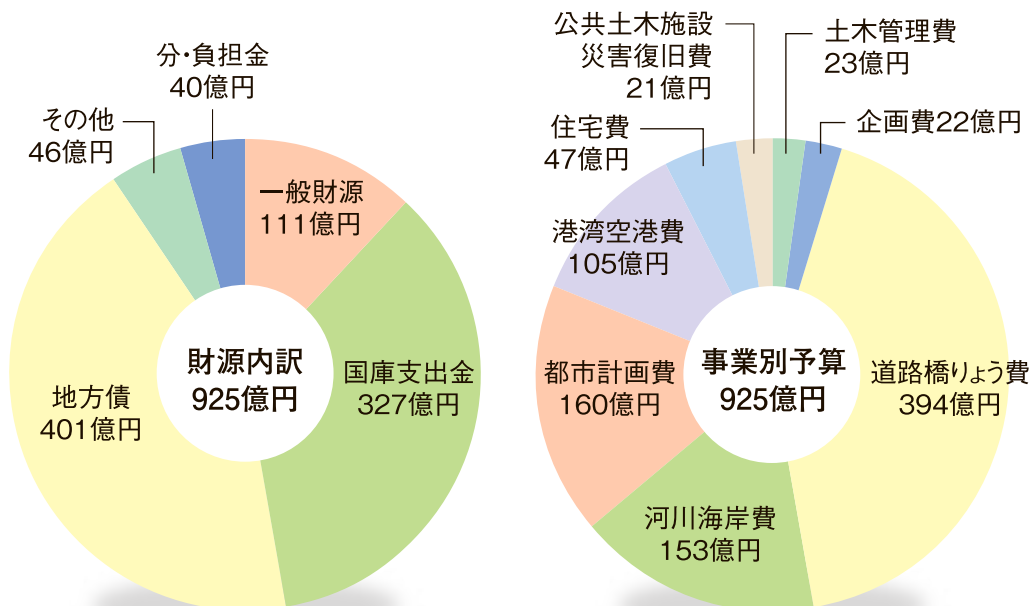
観光地への移動が便利になり、交通混雑も解消されます。

【平成23年度長崎県土木部予算】

平

成23年度予算の 使いみちと財源

土木部の平成23年度の予算は925億円。
県民のみならずの安全で快適な暮らしを支えるための
事業を行います。



新

たな取り組み

長崎らしい景観形成推進事業

本年度に策定しました「長崎県美しい景観形成計画」に基づき、住民や市町が行う景観まちづくり活動の支援や複数の市町をまたぐ広域景観形成を行うことで、長崎らしい景観形成を推進します。



野首教会と五島灘(小値賀町)

長崎港における国際物流・ 人流動向調査

長崎の交流人口の拡大や経済の活性化を目指し、長崎港が東アジアにおける日本の玄関口となることを目標として、国際的なモノ・人の流れを調査・検討します。

主

な事業箇所

道路・街路

- ・島原道路(島原市・諫早市・雲仙市)
- ・西彼杵道路(西海市)

都市公園

- ・JR長崎本線連続立体交差(長崎市)
- ・県立総合運動公園(諫早市)

河川・砂防

- ・日野川(佐世保市)
- ・本河内低部ダム(長崎市)
- ・鷺尾岳(佐世保市)

港湾

- ・長崎港(長崎市)・厳原港(対馬市)

住宅

- ・滑石団地(長崎市)
- ・深掘団地(長崎市)



日野川(佐世保市)

長崎県の大規模地震対策

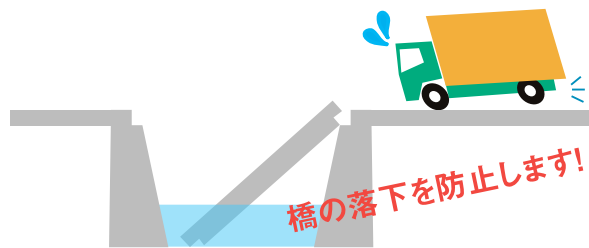
このたびの、東日本大震災でなくなられた方々にご冥福をお祈りし、被災された方々に、謹んでお見舞い申しあげます。
本県では、大規模地震の発生に備え公共施設の耐震化(耐震補強)に取り組んでおり、災害に強いまちづくりを行っています。今回は、県の主な取組を紹介します。

みち(橋)の耐震化

災害が発生した場合、被災者の避難や緊急物資の輸送支援等のために、緊急輸送道路の確保が必要となります。
この緊急輸送道路のなかで242の橋梁について、平成24年末までに完了できるように耐震補強対策を進めています。

【橋梁耐震化の目標】

平成22年度 **204橋** → 平成24年度 **242橋**



学校の耐震化

学校施設は、地震等の災害時には避難場所として利用されるなど、地域の防災拠点として重要な役割を担っています。
そのため、学校施設の耐震化が急務となっており、県立学校については平成24年度末までに完了し、市町立学校については平成27年度末までに耐震化率90%を目指しています。

【学校耐震化の目標】

平成22年度
市町立 69.7% → 90% (H27年度)
県立 90.3% → 100% (H24年度)

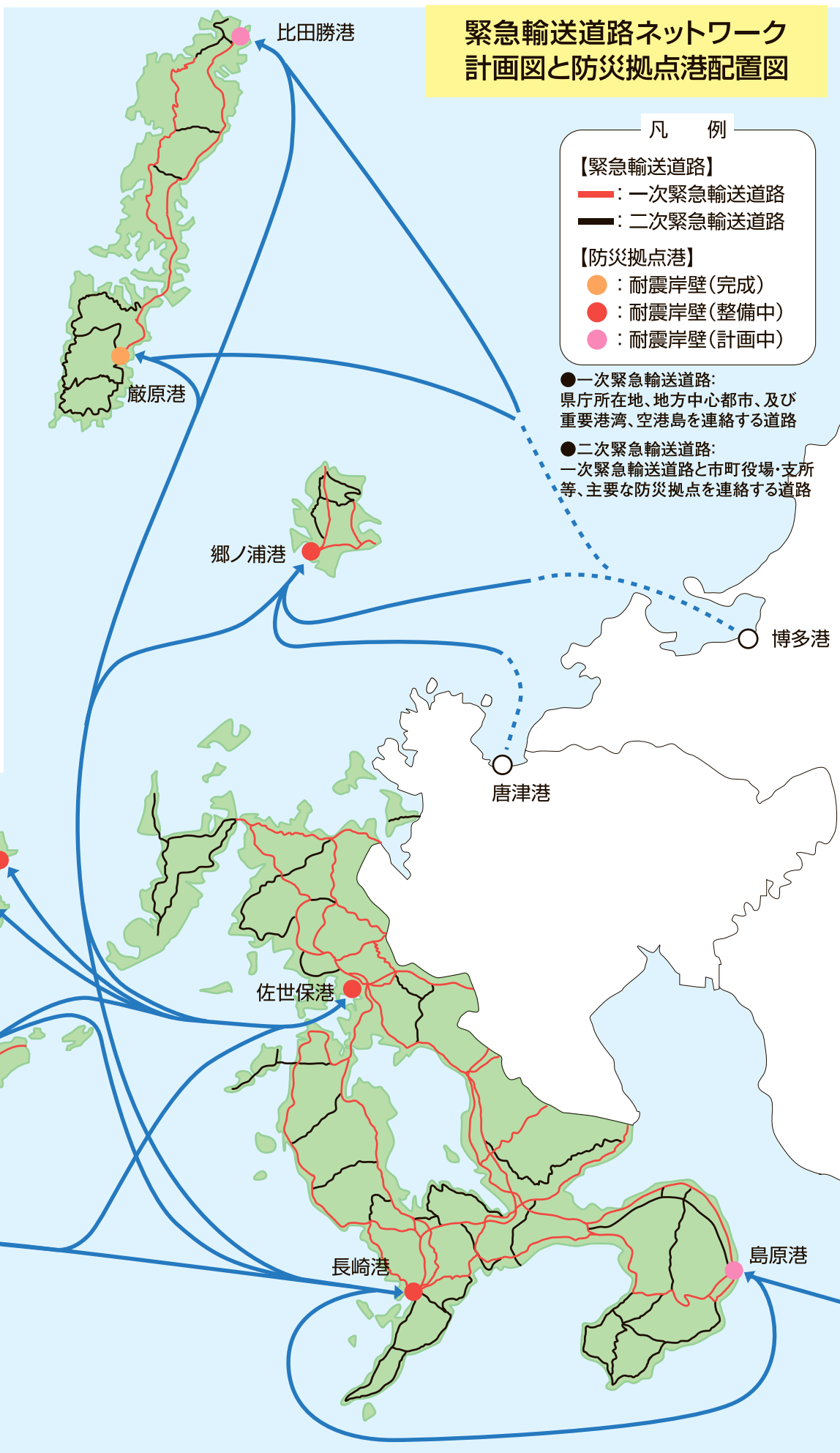


緊急輸送道路ネットワーク 計画図と防災拠点港配置図

凡例

- 【緊急輸送道路】
- 一次緊急輸送道路
- 二次緊急輸送道路
- 【防災拠点港】
- : 耐震岸壁(完成)
- : 耐震岸壁(整備中)
- : 耐震岸壁(計画中)

- 一次緊急輸送道路:
県庁所在地、地方中心都市、及び重要港湾、空港島を連絡する道路
- 二次緊急輸送道路:
一次緊急輸送道路と市町役場・支所等、主要な防災拠点を連絡する道路

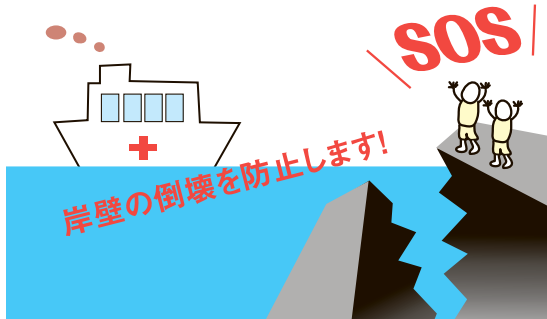


みなとの耐震化

万一、大規模地震が発生した場合、海上からの救援物資の輸送や住民の避難ができるよう、長崎港や拠点港湾において耐震強化岸壁等の整備を進めており、平成27年度末までの完了を目指しています。

【岸壁耐震化の目標】

平成22年度 **2施設** → 平成27年度 **11施設**



環境美化を考える会 長崎県西海市大島町

代表
田口昭子さん



長崎県北西部、西海市西海町と呼子ノ瀬戸を隔てて浮かぶ西海市大島町。平成11年に大島大橋が完成したことで九州本土とつながり、観光地としての利用者も増えました。この大島大橋のたもとで清掃活動をしているのが「環境美化を考える会」。取材日はゴールデンウィークが明けた5月9日。小雨が降る中でしたが熱心な清掃活動を天気が応援するように、じわじわと雨が上がり出しました。

清掃を始めたのは大島大橋が開通した平成11年。代表の田口昭子さんが病気を克服した後、「町に何か恩返しできれば」と考え大島町内のゴミ拾いをしたことからスタートしました。最初は1人でしたが田口さんの姿を見て、協力したいとメンバーが自然と増え、一緒に清

掃してくれる人数は今では100人以上。毎月1回、第1月曜を基本に集まっています。

「せっかく立派な大島大橋ができたので大切にしたいですね。大島に来てくれた人たちがいい町だったな、キレイな町だったなと気持ち良く帰ってもらいたいと思っています。清掃後の枝や葉は肥料にして畑にまいて、幼稚園や小学校などで野菜を育て、自然を大切にする心を一緒に学んでいます。夏にはナスやトマト、冬は蕎麦などができるんですよ」と代表の田口さん。「この前も小学生から「いつもありがとう!」と手紙をもらったり、清掃中に差し入れをいただいたり、町民のみなさんの感謝の言葉が嬉しくて頑張っています」と笑顔がこぼれていました。

町内の清掃活動以外にも不法投棄のパトロールや、大島町で開催されている長崎トライアスロン大会での炊き出しを行うなど多方面での活動が評価され、平成22年には国土交通大臣表彰を受賞しました。「町民のみなさんに元気もらいながら、これからも自然や道路を大切にする気持ちを子供たちにも伝えていきたいです」と抱負を語ってくれました。

道路に感謝する気持ちを大切に、
大島の美しい自然と町を守りたい。



長崎県の美しうまなびづくり 対馬編

皆さんはヒトツバタゴという木をご存知でしょうか。春に白い花を咲かせるモクセイ科の落葉高木で、限られた地区でしか自生していない希少種です。今回ご紹介する対馬の鱧浦は、三千本が自生する国内最大の群生地で、国の天然記念物にも指定されています。



鱧浦集落(景資第1—3号)

さて、対馬市の主島である対馬島は89%が山林で、山々が海まで迫る地形となっています。万関瀬戸をはさみ上島と下島に分かれています。上島の集落のつくりには特徴があります。山裾に立ち並ぶ民家に囲まれて、高床倉庫が林立しているのです。この倉庫、床下1m程も

ある正に高床倉庫で、海からの強風や湿気・火事から大切な食料や仕事道具などを守るため、民家から少し離れた道路沿いの低地を住民の共有地とし、各家が倉庫を建てています。こういった集落の形態や建物の配置は全国的に珍しく、これが最も良く残っているのが鱧浦集落です。他にも紺碧の海と段々畑のコントラストが美しい青海の里や、入り江の奥に位置し、穏やかな海に面する志多留集落などにも、同様のつくりが見られます。



青海の里(景資第1—9号)



志多留集落(景資第1—10号)

一方、下島の厳原は、対馬藩主宗氏の城下町として栄えました。武家屋敷や連なる石垣など、特徴ある落ち着いたまちでしたが、高度経済成長期頃になると、開発によりかつてのまちなみは徐々に姿を消していきました。

そんな中、持ち上がった県道の拡幅計画は、住民がまちづくりを考えるきっかけとなります。古いまちなみを守りつつ、新しい機能も兼ね備えたまちづくりをしたいという思いのもとに、住民・専門家・行政職員が集まりました。県道沿いの大町地区と武家屋敷通りの中村地区でそれぞれ20回以上のワークショップが重ねられ、それぞれの地区でまちづくりのルールを定めた住民協定が結ばれました。厳原の例は、まちづくりが住民の参加を経て行われた初期のもの

です。これらの地区では今でも住民の方々により、まちづくりが進められています。新しいまちなみ



大町地区(上)と
中村地区(下)

と古くからの集落が共存する対馬には、個性的な建造物も数多く残っていますが、今回は「源泉混々」をご紹介します。一風変わった名前ですが、実は河川の分水施設です。明治時代後期に、氾濫しやすい阿須川を2方向に分ける河川改修が行われ、川の水量を適宜分けるための分水施設がつけられました。厳原中心部の北のはずれにあり、なかなか探し出すのが難しい場所にあります。今も現役です。

もうすぐやってくる夏は、島のベストシーズン。歴史・アウトドア・食と様々な楽しみ方ができる対馬で、あなただけの「島の楽しみ方」を見つけてみてください。



源泉混々
(景資第2—14号)



日本風景街道「ながさきサンセットロード」道の駅スタンプラリー2011開催!!

「道の駅」松浦海のふるさと館 ☎0956-72-2278

ながさきサンセットロード沿線で自然と歴史が織りなす風景を眺めながら、道の駅での休息や出会いを楽しんでいただけるよう、7月1日～9月30日の期間、長崎県内9駅中、5駅分の橋のスタンプを集めると特産品が当たるスタンプラリーを開催しています。ふるって応募ください。(スタンプシートは長崎県内の各道の駅で入手出来ます。また、下記ホームページからプリントアウトしても活用できます。)



<http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/~n-fukeikaidou/>

「第23回長崎県まちづくりの絵コンクール」絵を募集しています

都市計画課 ☎095-894-3033

6月は「まちづくり月間」です。県では「第23回長崎県まちづくりの絵コンクール」を開催し、小学生の皆さんの絵を募集しています。

- テーマ
「すめたいまちってどんなまち？」
- 応募資格
県内在住の小学生
- 絵の大きさ
4つ切り(540mm×380mm)
- 応募方法
応募票(市役所や町役場に配布しているチラシの裏面)を絵の裏面に貼り、最寄りの市役所・町役場へ届けて下さい
- 応募期限
平成23年9月13日(火)必着
- その他
最優秀賞など10月下旬に発表

●新任者紹介(本年4月土木部長に着任)

DOVOC部長の村井です。よろしくお願いします。

長崎のイメージは、観光地、風光明媚、自然豊か、出島といったワードが浮かびます。でも、赴任辞令を受けて最初に頭に浮かんだのは、仕事柄「長崎大水害、雲仙普賢岳噴火災害」でした。

本県は過去に大きな災害を経験しています。県民の皆様の安全・安心な生活を確保するために、社会基盤の充実を図っていきたく先ず考えました。

赴任して各地方機関を回りましたが、「広い」と「狭い」という感想です。「広い」は移動距離が長いこと、「狭い」は平地が少ないことです。この「広い」が、少しでも「狭い」になるよう、陸・海・空の交通ネットワークの充実の必要性も痛感したところです。

また、「狭い」ことで、階段の多さや、張り付くように建っている住宅には驚きました。全国でも独特で、まさに長崎らしい風景と感じました。

長崎らしい特色のある風景を活かし、その地域に応じたまちづくりを行っていきたくと思っています。

今年度から「長崎県総合計画」がスタートしています。基本理念の「人が輝く、産業が輝く、地域が輝く長崎県」をめざし、土木部一丸となって突き進んでいきます。



むらい よし み
土木部長 村井 禎 美

◎プロフィール
北海道出身。昭和60年建設省に入省。
東北地方建設局、和歌山県土木部、近畿地方整備局、新潟県都市局などの勤務を経て、前職は国土交通省総合水資源管理戦略室長。平成23年4月長崎県土木部長。

おたよりコーナー

- 平戸「蘭風」に行ってきました。先日のDOVOCにあった平戸、田平、松浦の道の駅に寄り当地の土産を買って帰りました。美味しかったです。(福岡県遠賀郡 男性)
- 先日、島原へ行った際、以前に比べ、道の整備が進んでいることを実感しました。(福岡市 男性)
- 「頑張り! ルーキー」もよかったです。島原の被災地が花いっぱいになればいいですね! 応援したいです!(佐世保市 男性)

「DOVOC通信ながさき」では、読者の皆様からのご質問・ご感想をお待ちしています。本紙添付のがきをご利用ください。

宛先◎〒850-8570 長崎県土木建設企画課 ☎095-894-3021 FAX095-894-3461 ✉s08080@pref.nagasaki.lg.jp